

実施報告書

氏名 仙石泰週 所属 地域教育文化学部 児童教育コース 1年

派遣先大学 ベトナム国家農業大学

派遣期間 2015年9月8日～9月21日

・日本語教室での指導内容

指導内容は、基本的に学生が各自で日本語の教材を持っているので、それに従って日本語を教えました。私達日本人が教材に書いてある単語や例文の正しい発音を読み、説明は日本語がある程度分かるベトナムの学生がベトナム語で教えるという流れで授業を進めていきました。そして、期間中に私が教えた内容は「あれ」「これ」「それ」の使い分け、「行く」「来る」の違い、尊敬語の使い方、漢字、日常会話などです。「あれ」「これ」「それ」の使い分けを教える際に、実際にみんなで置いてある物を指さしながら教えていきました。また、そのときに習った新しい単語の「えんぴつ」や「かばん」、「ノート」も覚えられるように指さしながら「あれはえんぴつです」「これはかばんです」と何度も練習しました。このように、文法と単語がどちらも覚えることが出来るように工夫しました。そして、漢字を教える際は、正しい書き順で書き、漢字の一部にすでに習った漢字が入っていると一つ一つ確認し、すでに習った漢字と新しい漢字を使った熟語を教えて覚えやすいように心がけました。

・日本語教室以外での現地での交流活動

授業のないときは現地の学生にいろんなところへ連れて行ってもらいました。その際にも、現地の学生は「あれは日本語では何というの？」や、「あれは日本にはあるの？」など聞いてきて日本に対する興味がとても大きいことがわかりました。また、移動の際は主にバスで移動しました。そのバスの中で驚いたことがありました。それは、バスにお年寄りの方が乗ってきたときにバスの中で席に座っている人たちが我先にと席を譲りはじめたことです。日本でも、席を譲る場面は見ることは出来ますが、率先して席を譲るといのは多く見ることはありません。そして、席を譲ってもらったお年寄りの方はニコリと笑って席を譲ってもらったり、席を譲ってもらわずに譲ろうとしてくれた人と一緒に2人掛けの席に3人で座り仲良くおしゃべりをしていたりととても温かい光景を見ることが出来ました。このことからわかるようにベトナムでは年上の人をとても尊重する習慣があることが現地に行き良くわかりました。

・プログラムに参加した感想

私がこのプログラムを知ったきっかけは友人の勧めでした。そして、友人に誘われてプログラムに参加することにしましたが、正直ベトナムに行くまでは海外で日本語を教えようという強い気持ちもなく、ただ単に海外に行くことが出来るという感覚で参加しました。いざ現地のベトナムに行って授業を行ってみると、今までわざわざ誰かに教わった経験のない日本語を外国人に教えるということとはとても難しかったです。しかし、ベトナムの学生たちの授業を受ける真剣な姿勢に教えることにとってもやりがいを感じました。また、ベトナムで日本語を教えていくなかで、自分が普段話している日本語はとても面白いものだなと感じるようになりました。例えば、授業で現地の学生にも教えたように「行く」「来る」の違いや、

「いる」と「ある」の違いなどがあるところ、「は」「が」「を」「に」「の」を使い分け、そして、「にひゃく」「さんびゃく」など前につく数字によって「ひゃく」や「びゃく」になったりすることなどです。これらのことは、現地の学生になんでこうなるのかを聞かれてすぐには答えることが出来なくて、自分でもなんでなんだろうと疑問持ったことです。この疑問は日本にいたままだったら持つことはなかったかもしれません。ベトナムに行くことで改めて日本語の難しさ、面白さを知ることが出来ました。

また、ベトナムに行って自分の英語力がとても低いことがわかりました。相手に英語で伝えたいことがあっても言葉が出てこなかったり、相手の英語が理解できず何度も聞き返してしまう場面がたくさんありました。自分の英語学習について考え直すきっかけとなりました。

・自分の目標の達成度や努力した経緯など

いつも私達を色々案内してくれた学生たちはある程度日本語を話すことが出来る学生たちでした。でも、その学生たちも完璧というわけではなく細かいところが間違っていたりしました。その際、私は一応日本語が通じているから一つ一つ訂正することをしませんでした。話すことが目標ならばこのままでも大丈夫なのですが、この学生たちの最終的な目標は日本語の試験に合格して、日本で働くことです。だから、私は学生たちの為に一つ一つ間違いを訂正するべきだったと後悔しました。次回、ベトナムに行く際には正しい日本語の知識を身に付けより細かな日本語の指導を行っていきたいと思います。

・今後の展望

ベトナムに行く前までは、私は将来、小学校の教師になることを目指していました。しかし、自分の中でベトナムに行って海外で日本語を教える仕事という選択肢が増えました。それは、ベトナムの学生の日本語を学ぼうとする真剣な姿勢にとってもやりがいを感じたからです。そして、何より、ベトナムにいる日本語の指導者が少ないと感じたことが私が海外で日本語を教えてみようと思った理由の大きな要因です。ベトナムには日本で働きたくて日本語を勉強している学生がたくさんいます。しかし、日本語を教える指導者はかなり数が少なく、また、日本語をある程度理解できている学生が先生の代わりとなって日本語を教えているのが今のベトナムの現状です。これは、ベトナムに限らず他の国でもいえることかもしれません。私は、やる気があり明確な目標を持っている学生がたくさんいるのに、指導者が足りないために、日本語を学ぶことが出来ないことはとても残念なことだと思いました。そして、日本はとても恵まれている国なんだと思いました。日本では、学びたいことがあれば自分で調べたり、近所の図書館へ行き本を読んだりとあらゆる手段で学ぶことが出来ます。私たちはこのことを当たり前だと思って普段生活しています。しかし、これは特別なことで世界には学びたくても学べない人がたくさんいるということを忘れてはいけないと思います。また、もし私が将来教師になったら、このことを子どもたちに伝え、自分たちは恵まれているということを理解したうえでたくさんの方のことを学んでもらいたいと思います。